

5 その他の水質測定結果の概要

5.1 全窒素及び全リン

富栄養化の原因物質とされる全窒素、全リンは、河川 28 水域 30 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 5 水域 7 地点で測定した。測定結果は参考資料 5 に示す。

(1) 河川

河川において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は浅野川下流の鞍降橋で、最大値は 9.8 mg/L、平均値は 4.9 mg/L であった。

また、全リンの最大値が最も高かった地点は浅野川下流の鞍降橋で、最大値は 0.50 mg/L であった。平均値が最も高かった地点は御祓川下流の仙対橋で、平均値は 0.22 mg/L であった。

(2) 湖沼

湖沼において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は河北潟の大根布放水路前で、最大値は 2.0 mg/L、平均値は 1.0 mg/L であった。

また、全リンの最大値及び平均値が最も高かった地点は河北潟の大根布放水路前で、最大値は 0.15 mg/L、平均値は 0.11 mg/L であった。

(3) 海域

海域において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は金沢港(甲)の泊地出口で、最大値は 1.5 mg/L、平均値は 0.98 mg/L であった。

また、全リンの最大値が最も高かった地点は七尾南湾(乙)の寿町防波堤内で、最大値は 0.082 mg/L であった。平均値が最も高かった地点は金沢港(甲)の泊地出口で、平均値は 0.057 mg/L であった。

5.2 特殊項目（銅、全亜鉛）

銅、全亜鉛は、梯川水系を中心に河川 12 水域 20 地点、湖沼 1 水域 1 地点で測定した。測定結果は参考資料 6 に示す。

(1) 銅

銅の最大値が最も高かった地点は郷谷川の主谷川合流点上流で、最大値は 0.18 mg/L であった。平均値が最も高かった地点は郷谷川の主谷川合流点上流及び主谷川合流点下流で、平均値は 0.13 mg/L であった。

(2) 亜鉛

全亜鉛の最大値が最も高かった地点は郷谷川の主谷川合流点上流で、最大値は 0.35 mg/L であった。平均値が最も高かった地点は郷谷川の主谷川合流点下流で、平均値は 0.29 mg/L であった。

5.3 その他の項目（陰イオン界面活性剤）

陰イオン界面活性剤は、河川 11 水域 11 地点、湖沼 1 水域 1 地点、海域 1 水域 1 地点で測定した。測定結果は参考資料 7 に示すとおりであり、最大値が最も高かった地点は羽咋川の羽咋大橋で、最大値は 0.10 mg/L であった。平均値が最も高かった地点は前川の浮柳

新橋及び羽咋川の羽咋大橋で、平均値は0.05 mg/Lであった。

5.4 水生生物保全環境基準に係る事前調査結果

水生生物保全環境基準に係る事前調査として全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、底層溶存酸素量を測定した。測定結果は参考資料 8 に示す。

(1) 全亜鉛

全亜鉛は、「2 特殊項目」として全亜鉛の測定を行った地点を除き、河川 44 水域 67 地点、湖沼 3 水域 7 地点、海域 11 水域 38 地点、計 112 地点で測定した。最大値及び平均値が最も高かった地点は於古川下流の於古川橋で、最大値は 0.035 mg/L、平均値は 0.023 mg/L であった。

(2) ノニルフェノール

ノニルフェノールは、河川 47 水域 76 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 122 地点で測定したが、いずれの地点も報告下限値 (0.00006 mg/L) 未満であった。

(3) 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩

直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩は、河川 47 水域 76 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 122 地点で測定した。最も高かった地点は、御祓川上流の藤橋二号橋で 0.0061 mg/L であった。

(4) 底層溶存酸素量 (底層 DO)

底層溶存酸素量は、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 46 地点で測定した。最小値が最も低かった地点は木場潟の木場潟中央で、最小値は 4.7 mg/L であった。平均値が最も低かった地点は加賀沿岸海域の加賀市橋立漁港沖及び能登半島沿岸海域の能登町市之瀬沖で、平均値は 8.1 mg/L であった。